

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	求められる資質・能力の習得のため、必要な知識を伝え、教科等の特性を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点や「考える授業」を展開します。ICT機器を活用した授業や家庭学習への取り組み方などについて、教職員が互いに情報交換をし、授業力向上・学習支援に努めます。	教科等の特性を踏まえつつ、ロイノートを活用した双方向のやりとりをしたり、デジタル教科書を用いて聴覚や視覚から理解を促したりすることで、主体的・対話的な深い学びができるよう、授業力の向上に努めた。	B
豊かな心	道徳では、対話的な学習を通して、道徳的諸価値を多面的多角的に深く捉える時間とします。人権作文に全校で取り組むと共に「福祉教育」をテーマに人権講演会を行い人権意識を高めます。行事や学習場面で、誰もが主人公になる場面設定をし、自尊心や他者に寄り添う心を育みます。	全校で取組んだ人権作文の校内代表生徒の発表の場を設け、人権意識を高めました。バラスポーツ選手の人権講演会は、命の大切さを感じる機会となりました。道徳の授業の導入に重点を置いた職員研修を行い、題材を「自分ごと」と捉え、対話を通じて考えを深められるよう工夫しました。	B
健やかな体	生徒の実態に応じた保健教育を行い、いのちの尊重、心と体の健康を目指します。思春期に起こり得る健康課題に向き合い解決に向け、生徒・保護者に寄り添います。生徒自身が成長を喜び、生涯健康で過ごすために必要なことを考え、しなやかに対応できる力を育む3年間にします。	今生徒に必要なことは何かを考え、生徒の実態に合った保健教育を計画的に実施しました。生徒自身が課題に気づき、解決するための行動姿勢が振り返りなどから見えました。また必要に応じて専門家を取り入れたことで、生徒の興味関心を高め、理解を深めることができました。	A
地域学校協働活動	学校と地域の連携・充実を図り、多くの生徒が地域と関わることができるよう工夫します。地域コーディネーターと連携し、地域の力を学校へ取り入れます。学校運営協議会や学地連携事業実行委員会を通じ、地域や関係諸機関と連携し課題解決の方法を探り、生徒の健全育成に努めます。	学校ボランティア(鶴ボラ)の活動を中心に、地域行事や地域清掃活動など、学校と地域を結ぶ活動に参加しました。地域と中学校の活動として、有意義な活動を行うことができました。今後も活動の輪を広げ、地域と共に学ぶ、協働的な学びを広く展開していきたいと考えています。	A
いじめ根絶にむけて	いじめの早期発見のために、生徒見守りの強化、いじめアンケート等による実態把握の機会を増やします。未然防止に向け、社会的スキル向上を目指した取組を行います。学校いじめ防止対策委員会に加え、臨時の会議で情報交換や指導方針を検討し、いじめに対して組織的に対応します。	いじめの未然防止、早期発見のため、アンケートの実施や教育相談の時間を設定し、実態把握に努めました。生徒会での活動では「いじめを起さないために」をテーマに小中ブロック、地域との話し合いの場を設け、意見交換をおこないました。今後も安心できる環境づくりに努めます。	A
特別支援教育の充実	不登校傾向の生徒や在籍学級への登校が難しい生徒のために、「安心して過ごせる居場所」と「個に応じた学び」を提供する校内ハートフルを支援員とともに運営します。そのために職員体制を整え、段階的な目標設定を中心に、生徒の実態に応じた指導計画・支援計画を策定します。	校内ハートフル支援員とともに、職員が必ず1人入り、さらに授業番号を固定して授業を行い、参加することができる生徒も増えてきました。また、学生ボランティアも積極的に受け入れ、一人ひとりの習熟度に合わせた計画を策定し、学習支援を行うこともできました。	A
教育相談・生徒指導	温もりある指導を目指し職員の共通認識を高める研修やSNSや発達障害・不登校などの研修を行います。長期休業明けの教育相談と共に、日常から生徒との関係作りを進めることで生徒が抱える諸問題の予防・早期発見に努めます。YPプログラム等を使い積極的生徒指導に取り組みます。	職員研修や普段の職員間の会話を通して意識向上と共通理解を高めました。係で週1回会議をもち連絡・連携を密にしました。生徒との関係作りのため教育相談週間だけでなく、日常から工夫をして時間を作り進めると共に、YPを用いて生徒が抱える諸問題の予防、早期発見に務めました。	A
小中連携事業	小中一貫ブロックにおいて目指す子どもの姿や育む力を共有し、9年間を見通した学びのプロセスをとらえ、教育課程等の円滑な接続を図ります。小中担当者会や教科別研修会における情報交換と共に、ICT機器の活用や情報モラル教育の推進を含めた学びの場のさらなる連携を図ります。	小中担当者会や研修会を通じ、ICT機器の活用やモラル教育の連携を中心に9年間を見通した学びの重要性を再認識できました。授業参観や部活動体験など児童生徒の交流の場をもつことにより、学びの接続のみならず学校生活を円滑に接続する取組となりました。	B
防災・安全教育	避難訓練や防災の時間などを通して、災害時の安全確保のために自ら考え行動できる力を育みます。令和6年度から実施の小中引き取り訓練を継続し、家庭・地域と協働した防災教育に取り組みます。交通安全教室では、交通マナーを守り、自ら考え、安全に行動できる力を育みます。	避難訓練や引き取り訓練に加え、学校保健委員会や総合的な学習の時間のテーマを「防災」に設定し、生徒委員会や学年単位でも計画的に進めていきました。またPTAや地域、関係機関と協働したことで、より深い学びの習得と生徒の主体性を育むことができました。	A
人材育成・組織改編・働き方の見直し	メンターがメンティーより具体的な助言を受ける機会を定期的に持つと共に、教職員がそれぞれのステージにおける人材育成を意識し、資質・能力のレベルアップを図る機会をつくります。学校運営組織が持続可能な体制となるよう、組織検討委員会の取組を通してさらなる改善を図ります。	メンターチーム研修で中堅教諭が企画した内容をメンティと共に学び合う機会を持ちました。また「授業と評価の一体化」をテーマに経験の浅い職員の授業研修会を実施し授業改善の一助としました。職員減に伴う組織の見直しや担当業務の均等化を引き続き進める必要があると考えます。	B
ブロック内評価後の気づき	昨年度に引き続き、地域行事を通じた交流、小中交流日における中学校授業見学・部活動体験、小中合同の引取り訓練など、児童生徒の関わり合いの機会を多く持つことができました。また中学校職員の小学校授業参観や小中教科別研修会を通して小中共通の課題を共有すると共に、9年間を見通した学びのプロセスをとらえる好機となりました。小中担当者会における情報交換は児童生徒理解やその指導に大きく生かされています。情報モラルの共同推進や捉えたブロック共通の課題の解決に向けた取組の推進が今後さらに必要とされます。		
学校関係者評価	本校の地域ボランティア「鶴ボラ」や保健美化委員の地域行事への参加について高評価をいただきました。地域行事への参加は地域を知るきっかけとなるとともに、地域事業継続や参加者自身の自己有用感の醸成のためにも、中学生の更なる積極的な参画が求められています。また、多発するSNSトラブルを踏まえ、ICTの使い方・ルールへの理解や情報モラルの育成に対する必要性が話題となりました。生徒たちを取り巻く問題が多様化し、学校だけでは解決困難な事象も多くなり、地域・家庭が学校と連携していくことが不可欠であるとともに、地域・学校が保護者を支えていく取組が必要であると意見をいただきました。		
中期取組目標振り返り	各部署それぞれに重点取組分野の内容の更なる充実に努めました。特に地域における中学生へのニーズや期待の高まりと共に、地域における本校生徒の活躍にも広がりが見られました。今後地域に開かれた教育課程の在り方が求められる中、地域と中学校の更なる連携の必要性を感じます。今年度2日目となる学校運営組織が「職員減」働きやすい職場の実現といった課題に対応し、かつ持続可能なものにするために、教育課程の在り方や業務内容の精選はもちろんのこと、次年度は職員の人材育成や研修を充実させることで、職員集団の意識や実践力の向上さらに求められます。		

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
地域学校協働活動			
いじめ根絶にむけて			
特別支援教育の充実			
教育相談・生徒指導			
小中連携事業			
防災・安全教育			
人材育成・組織改編・働き方の見直し			
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
地域学校協働活動			
いじめ根絶にむけて			
特別支援教育の充実			
教育相談・生徒指導			
小中連携事業			
防災・安全教育			
人材育成・組織改編・働き方の見直し			
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			